

公益財団法人 檜の芽会 御中

令和6年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施報告書

| | | | |
|-------------------------|-------------------------|-----------|--------|
| 【団体の概要】 | ① 作成日 | 令和7年5月29日 | |
| ②法人・団体名 | 一般社団法人彩の国子ども・若者支援ネットワーク | | |
| ③団体所在地 (都道府県・市町村名まで) | 埼玉県さいたま市浦和区高砂 | | |
| ④責任者氏名 | 土屋 匠宇三 | (役職名等) | 代表理事 |
| ⑤担当者氏名 | 竹林 志保 | (役職名等) | 本部事務担当 |

| | | | | | | |
|---------------------|--|---------|-------|-------|----------|----|
| 【奨学活動の概要】 | ⑥助成交付決定番号 | R06-030 | ⑦助成金額 | 150万円 | ⑧申請カテゴリー | DS |
| ⑨奨学活動名 | 埼玉県における生活困窮世帯の学習支援 | | | | | |
| ⑩主な実施場所名・ 及びその住所 | 中学生教室：越谷市・新座市・上尾市・桶川市・北本市・鴻巣市・狭山市・入間市・蓮田市・西部地区合同（東松山市・毛呂山町・鳩山町・越生町・川島町・吉見町・滑川町・嵐山町・ときがわ町・小川町・東秩父村）・北部地区合同（寄居町・長瀬町・美里町） | | | | | |

⑪活動内容とその成果の概要（詳細は【様式3-2】又は別添資料にて記載・説明ください。）

生活困窮世帯の中学3年生を対象に高校入試対策の強化を目的として、自治体からの委託の範囲では開催できなかった教室（通称：特別教室）を実施した。参加者の事例として、幸手市の高校3年生が市役所に採用決定したという報告がされている。この子どもは中3まで不登校であったが、学習支援員の熱心な家庭訪問と訪問学習を経て学習教室に参加するようになり高校に進学した。3年間無遅刻無欠席で高校生活に励み学習教室も継続、特別教室には就職への強い意志をもって参加した。子ども1名に対し学習支援員、元教員の学習指導員、社会人や学生ボランティアが、就職試験対策の指導および面接対策や相談等のきめ細やかな支援をおこなって、3名の採用枠の市役所職員に見事採用された。令和7年3月時点で中学校3年生の300名以上が県立高校をはじめとする第一志望校に合格した。特別教室は中学3年生だけでなく、就職試験を考えている高校生や将来的な高校受験を見据えた中学1・2年生が主体的に受講した。特別教室を埼玉県全域で開催し子どもたちの学力と学習意欲の向上に繋げていきたい。

⑫奨学活動の定量的把握（注：統計情報として参考まで把握するものです。活動成果等は上段⑪及び様式3-2等でご報告願います。）

| 支援対象 | 延べ人数 (A：人) | 平均時間 (B：時間) | 活動量 (A x B) | 備考・補足・計算根拠等 |
|--------|---------------|----------------|----------------|-------------|
| 中学生等 | 486 | 2 | 972 | |
| 高校生等 | 148 | 3.5 | 518 | |
| 大学生等 | | | | |
| 学習支援員等 | 529 | 2 | 1058 | 職員およびボランティア |
| その他 | | | | |
| 合 計 | | | 2548 | |

⑬その他の定量的な数値（任意）

令和6年度伴走型就学・学習支援活動助成 実施詳細報告書

奨学活動名：埼玉県における生活困窮世帯の学習支援

法人・団体名：一般社団法人彩の国子ども・若者支援ネットワーク
作成者 氏名：竹林 志保

1. 取り組んだ課題や実践した目的・実施内容について

学習塾等では受験対策として夏期講習や冬期講習、合宿等が実施される。一方、生活困窮世帯では経済的にそのような余裕がないため、一般世帯との情報格差や学力格差が生じ高校入試において不利な状況に置かれている。当法人での支援経験では、生活困窮世帯の子どもや保護者が将来に対して不安を募らせるケースが多く見られた。以上の理由から、長期休暇や受験直前期に自治体からの委託の枠を超えた追加の学習教室（特別教室）を開催し、子どもの学力向上を図り世帯の不安を軽減する支援を前年に継続して実施した。

- ・対象：生活困窮世帯の中学3年生
- ・内容：主として埼玉県立高校の入試対策の指導

子どもの学力・特性にあわせた学科試験対策＝「集団指導」と「個別指導」組み合わせ
 集団指導…職員や元教員（有償ボランティア）が講師を務める講座
 個別指導…大学生を中心とした無償ボランティアが各子どもについて指導

2. 実施した奨学活動の詳細

・活動内容の詳細

特別教室実施例

| | |
|--|---|
| <p>①宿題特別教室</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ・宿題の提出は内申点に反映され高校入試の合否に影響するため ・夏期・冬期休暇中に開催 ・1対1または1対2でボランティアが個別指導 ・教材は、自力で終わることができなかった宿題を子どもが持参 |
| <p>②国語特別教室</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・元高校国語科教員の職員が講師となり、作文講座を実施 ・講師自身の問題作成経験と採点経験をもとに、入試作文で重視されるポイントを解説 ・減点対象となる書き方について ・入試作文で出題されるデータの読み取り方 ・実践演習と講師による添削 ・作文講座に加え、一部の学習教室では古典分野の現代的仮名遣い等、基礎的な知識に関する講義 |
| <p>③数学特別教室</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・数学については子どもの学力差が顕著であるため、講義形式ではなく個別で一人ひとりのレベルに合わせた指導を行った ・埼玉県立高校入試で毎年出題される単元について、職員や元教員らがプリントを作成し配布した ・極端な低学力の子どもに対しては、小学校の内容（四則計算、小数、分数）の復習を行った上で、文字式、方程式、平方根、因数分解、連立方程式、二次方程式等の得点源になる問題だけを抽出して反復練習を行った |
| <p>④英語特別教室</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・リスニング講座 |

| | |
|---|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 英作文対策講座 ・ 職員、元教員の有償ボランティア、留学経験がある無償の学生ボランティアが連携しポイントを解説した |
| <p>⑤ 理科特別教室</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ・ 入試講座：元教員の有償ボランティアが、入試で出題されやすいポイントと、元素記号・化学式について解説した。 ・ 実験教室：理科への関心を高めるために実施した。中学 1～3 年生を対象として開催した。大学教員が講師となり、金属の特徴について実験を披露し子どもたちも体験した。 |
| <p>⑥ 社会特別教室</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎年出題される入試問題の解説 ・ 六大陸三大洋、地図問題（地図記号・地形図）、気温図問題 ・ 個別指導形式での学習を選択した子どもに対して、元教員が作成したこれらの分野に特化したプリントを配布し、子どもと無償ボランティアと一緒に解いた。 |
| <p>⑦モチベーションアップ講座</p>  | <ul style="list-style-type: none"> ・ 埼玉県立高校入試制度の解説 ・ 模擬試験質問会 ・ 長期休暇中の過ごし方 ・ 主要 5 科目の学習計画と学習方法に関する講義 ・ 受験に向けた基本的な生活習慣の重要性（早寝早起き、スマートフォンとの付き合い方、勉強に適した環境の確保等）に関する講義  |



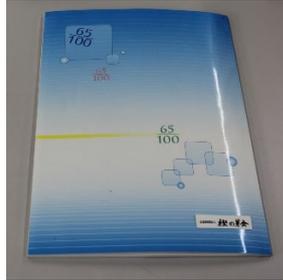
・参加人数

【様式 3-1】⑫のリストに記載

・周知方法や協力いただいた関係者・地域やボランティア活動との連携・学習支援員（職員）について
周知方法：学習支援対象者にチラシ、お手紙を学習支援員が説明して手渡し

ボランティア、学習支援員：【様式 3-1】⑫のリスト、1 および活動内容の詳細のリストに記載

・購入した機材・物品の写真（助成表示用シールの貼付）



教材



チラシ

3. 本活動から得られたもの、反省点、課題、今後への発展性、等

本活動での支援により、中学校3年生の300名以上が県立高校をはじめとした第一志望校に合格した。また昨年と同様、中学1・2年生の中にも自ら希望して講習を受講する子どもが一定数存在することを考えると、受験生向けの特別教室を開催することは早期からの学習意欲の向上に繋がることが窺えた。さらに特別教室を実施する自治体を広げ、埼玉県全域での実施を目指し子どもたちの学力と学習意欲の向上に繋げたい。

一部の子どもについては、受験まで学習教室ではなく家庭訪問による個別学習をおこなっている。来年度以降も子どもとの信頼関係を早期から構築することで学習教室への参加を促し、一人でも多くの子どもが特別教室へ参加できるよう努めたい。こうした支援が結実し、中学校3年生まで不登校であった子どもが、高校進学を果たし、今年3名の採用枠で市役所の就職を射止めたことは望外の喜びとなった。今年度の取り組みでも大学進学以外にも高校卒業後の就職など見据えた支援を継続することでより貧困の連鎖を断ち切り子どもの自立に繋がることが明らかになった。これまでの実践を通して支援の必要性和有効性の確証が得られたため、個別のニーズに合わせて中学3年生という支援対象年齢を越えた支援を継続していく。

4. 本活動におけるエピソード、思い、感想、等（任意）

◆ 特別教室に参加した子どもの感想

- ・ 数学の基礎ができるようになって自分での点数の伸びてきた実感がわきました。
- ・ 自主学习ではできない分からない所が理解できた
- ・ そこまで勉強は好きじゃないけど、この教室に居るとすっごく勉強に集中できる。
- ・ できるようになった実感が少しずつ出てきて、勉強のやる気が前よりはでるようになった。
- ・ 一年のころから通っていて人とのコミュニケーションがつかめるようになってクラスもよくとても楽しいです。
- ・ 最初、初めて来たときは緊張と不安があってしゃべることができなかったし毎週行く度に緊張ばかりだったけど少しずつ慣れていくと楽しくなってきたし自分が思うことや分からないことを言えるようになってきて今では普通にしゃべれるようになったので「自分、変わったな!」と感じました!

◆ 特別教室の参加したボランティアの感想

- ・ 子どもとの関わりや、ボランティアと子どもとしての信頼関係が徐々に築かれていることを実

感でき、自身の学びもとても多かったです。

- ・ 一人一人の子どもに対して良いこと直すことに深い理解があり、良く考える事をみんなで行う雰囲気づくりがされていて、子ども達に必要な場所と感じた。
- ・ 楽しく明るい雰囲気だった。毎回の教室で学びになることが多くあった。
- ・ 教室にいる大人が子どもたちのことを考え、学習面のみならず日常の悩みや抱えている問題に寄り添ってあげている姿、状態をととてもあたたかいと感じるし、その空間に自分自身も関わっているのだと思うと充実感も得られました。

5. 学識者からのご意見、コメント、等（申請カテゴリーにて「S」が付されている団体）

<コメント>

学習支援の成果(効果)は、学校での学習に適応できず、未来志向が持てない生活困窮家庭のこどもが、進学や就職というステージに到達できた数量によって評価することができる。それに加えられなければならない観点は、支援される者が、“わかる”喜びを発見し、支援する者、自らも成長することに気づく、“学びあい”という非計測的な教育的成果である。

生活困窮家庭のこどもは、進学準備のための学習塾などを利用できる経済的余裕がなく、就職準備の意欲も形成されにくい環境にいる。本事業は、こうしたこどもたちを対象に、自治体の支援枠を超えた学習教室(特別教室)を提供するものである。

特別教室の内容は、助成を活用した昨年度のプログラムとほぼ同様であるが、今年度も、多数の中学生を高校に進学させる大きな成果を生み出している。中学校3年生まで不登校であったこどもが高校進学を果せたり、市役所の正規職員として採用されるという画期的な結果も生み出している。さらに、参加したこどもたちの中には、特別教室を通じて、消極的だった自分が「自分、変わったな!」と自己評価を高められた感想を述べる者もいる。支援するボランティアも、学習支援を通じて、自分自身の学びを自覚できたり、教室空間の人間的な温かさにかかわる満足感を得ている。これらは、計測的評価の基準を超えた学びあい活動の効果であると評価できる。

高校に進学できるかどうか、就職できるかどうかで、こどもたちは貧困状況から脱出できる可能性を獲得でき、自信をもって自立に向けた未来を手に入れることができる。成果の大きいこうした支援活動を来年度も維持するために、自治体の枠を超えた継続的な助成が望まれる。助成は、彼らの進むべき未来を照らし示す灯りである。

山口和孝(埼玉大学名誉教授)